



いわて遠野牛の生産者のみなさん



## いわて遠野牛

冷涼な気候ときれいな水に恵まれた岩手県遠野市。この地域は、日本有数の肉用子牛の生産地として知られています。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、産地にも甚大な被害が。そうしたなか、復興と活性化をめざして、地域のブランド牛を、イトーヨーカドーのプライベートブランド「顔が見えるお肉。」いわて遠野牛」として販売しようという取り組みが始まりました。

平成23年10月から、販売を担うイトーヨーカドー子牛生産を担う遠野市、肥育を行うエスフーズの3者が連携、「遠野生まれ、遠野育ち」をキャッチフレーズに、繁殖から肥育を一貫して行ってきました。

平成24年1月、イトーヨーカドー花巻店で販売を開始。それから2年半を経て、今年7月、全店舗での販売が実現しました。そのやわらかな舌触りと、まろやかな脂肪の甘みで早くも人気となっています。



商品パッケージにも掲載された、生産者のみなさん



## 真崎わかめ

岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、雄大な太平洋を臨む岩手県宮古市田老は、三陸地方のワカメのなかでも高級品として知られる、「真崎わかめ」の産地です。身が厚くほどよい弾力と、濃い旨み特徴で、イトーヨーカドーでも平成7年より販売し、人気商品として定着してきました。

しかし、震災による津波が、収穫直前のワカメを直撃。震災直後から、イトーヨーカドーには、「真崎わかめを、もう一度食べたい」という消費者からの声が殺到。そこで産地と協力し、販売再開に向けた取り組みがスタートしました。

平成24年3月販売を再開、そして平成26年3月念願の新工場稼働。より安定した品質の実現が可能となり、「顔が見えるお魚。」真崎わかめ」として、販売を開始しました。イトーヨーカドーで扱うのは、もっともおいしいとされる旬の3月に刈り取ったワカメ。塩分控えめで、素材本来の味を楽しめると、好評です。

## 東北の食材を積極活用！プライベートブランド「顔が見える食品。」シリーズ



上) イベント「東北の夏祭り 盛り上がり東北」で行われたプロジェクトの概要発表。左から麒麟ビールマーケティング(株)代表取締役社長 布施孝之さん、2013年度ミス・ユニバース日本代表 松尾幸実さん、農林水産省皆川事務次官、(株)イトーヨーカ堂代表取締役社長 戸井和久さん、エスフーズ(株)代表取締役社長 村上真之助さん

下) いわき市のフラダンスチームによるダンスショーの様子



者を身近に感じられる工夫をしています。

プロジェクトの発足当初、協賛・参加社数は22社ほどでしたが、趣旨に賛同する企業が続々と増え、今年7月、239社にまで拡大。同時に、「顔が見える食品。」シリーズで販売する食材を含め、展開商品を約1,710アイテムと大幅に増やし、新3か年計画として、新たなスタートを切りました。

7月19日には、東京都江東区のイトーヨーカドーアリオ北砂店で、イベント「東北

の夏祭り 盛り上がり東北」を開催。来店者へのプロジェクトの概要の周知のほか、東北の郷土芸能や、いわき市のフラダンスチームによるショーなどが行われました。

今後も発展が期待される同プロジェクト。伊藤さんは、「生産者とお客双方の想いを伝えることができるのがわたしたち小売業の強み。流通を通して、両者が支え合えるような、復興支援の仕組みを作りたい」と、意気込みを語ります。

## 東日本大震災からの復旧・復興に向けて

# 「東北かけはしプロジェクト」

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

東日本大震災からの復興支援に、積極的に関わってきた株式会社セブン&アイ・ホールディングス。小売業の強みを生かし、生産者や企業、行政など協力し、東北で作られた商品の販売などに取り組みんでいます。

文／梶原芳恵 写真／松本雄一  
写真提供／株式会社セブン&アイ・ホールディングス



- 2 東日本大震災からの復旧・復興に向けて「東北かけはしプロジェクト」／株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- 4 特集1 日本の森林を育むのは、あなたの「木づかい」
- 12 チャレンジャーズ  
○石川県 株式会社金沢大地  
○北海道 齋藤農園・伏古商店街振興会
- 16 特集2 食文化研究家・清純の「味わいふれあい 出会い旅 第5回」／愛媛県宇和島市「ふくめん」
- 20 MAFF TOPICS  
○水産庁の最新取締船 白竜丸、間もなく出航！  
○「実りのフェスティバル」が開催されます
- 23 読者の声／農林水産省とれたてニュース

表紙：(株)北村建築工房 撮影：多田昌弘

広報誌「aff(あふ)」について  
農林水産業や農山漁村は、食料の安定供給はもちろんのこと、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能の発揮を通じ、国民の皆さまの毎日の生活において重要な役割を担っております。また、農林水産行政は、生産などの現場に密着したものであると同時に、毎日の生活に深く関わっています。農林水産省では「aff」を通じ、農林水産業における先駆的な取り組みや農山漁村の魅力、食卓や消費の現状などを紹介しております。

ホームページのご案内  
「aff」は、農林水産省のホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/>



編集・発行 農林水産省大臣官房総務課広報室  
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1  
TEL.03-3502-8111 (代表) FAX.03-3502-8766  
<http://www.maff.go.jp/>

編集協力 一般社団法人家の光協会  
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11  
TEL.03-3266-9045 FAX.03-3266-9046  
<http://www.ienuhikari.net>

メールマガジンのご案内  
大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週金曜日に発行しております。ぜひ登録ください。無料です。  
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

フェイスブック・ツイッターのご案内  
フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>  
ツイッター [https://twitter.com/MAFF\\_JAPAN](https://twitter.com/MAFF_JAPAN)  
本誌に掲載した論文などで、意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りします。